

HB通信

編集・発行 /
一般社団法人
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281
e-mail: blrhg@extra.ocn.ne.jp URL: http://blrhg.org/

所長の諏訪山だより

皇位継承の議論に抜け落ちているもの

前回は、皇位継承に関する有識者会議の最終報告書で、旧宮家の男系男子が養子として皇族復帰する案があげられているが、1947年に廃止された旧11宮家は、すべてが約600年前に天皇家から分かれた伏見宮系であることを述べた。以下は、そのつづきである。

現在、旧11宮家のうち、6つの旧宮家はすでに廃絶し、3つの旧宮家に1996年以降に生まれた未婚の男系男子が8人いるらしい。これらの人たちの「希望者」が男性継承者のいない三笠宮か、高円宮に養子に入るものと考えられる。私は、男系で数えて現天皇と40親等ほども離れた、血縁的つながりがほとんどないといってよい人たちが皇族になるのはおかしいと言いたいのではない。ここで問題にしたいのは、自分が生まれる50年ほども前、祖父母か曾祖父母の代に皇族から離れ、現在、すでに職業に就いていたり、または将来の職業や居住地（海外も含む）など、多様な希望をもつ若年男性が、皇族という著しく人権が制約された身分にさせられることである。

当然、報告書では養子縁組を承諾するか否かは、本人の判断によるとなっているが、これを断ることができるであろうか。さまざまな根回しがあって、断り切れない状態にさせられるのではないか。また、仮に断り切ったとしても、そのあと日本国内に住み続けることができるのだろうか。「もし辞めることができるなら、皇族みんなが辞めるだろう」と、高松宮は言ったそうであるが（私はこれを『週刊新潮』で読んだ覚えがある）、本人の意思だけによる選択なら、誰も皇族にはならないのではないか。友人と買い物や外食に出かけたり、自分の行きたい所へ旅行することもままならない生活に進んで入ろうとする若年男性など、いまの世の中にいないであろう。

養子として皇族となった旧宮家の未婚男性には、皇位継承権はない。しかし、この男性と結婚する女性は皇族となり、この夫婦の間に生まれた男の子は皇位継承権をもつのだ（そもそもこれが目的である）。そうすると、この夫婦は男の子を生まなければならぬという、計り知れないプレッシャーに苦しむことになる。こうしたプレッシャーや苦勞、それに不自由な生活を特定の人たちに押しつけてまで、天皇制を存続させなければならぬのか。この議論をまず始めるべきであろう。

所長 石元清英

はじめてみよう！

部落問題学習、考え方・実践のヒント (その11)

当研究所では「これからの部落問題」学習プログラム作成研究会を組織し研究を重ね、2017年3月に解放出版社より『はじめてみよう！これからの部落問題学習』（2,000円+税）を刊行しました。うれしいことにご好評をいただき、2020年8月、2度目の増刷となりました。当欄では『はじめてみよう！』掲載の16のコラムを順次掲載し、部落問題の考え方のヒント、学習実践のヒントをご提供していきます。
(執筆者の所属・肩書は2017年3月当時)

▶『血筋が違う？ 自分の祖先をたどってみよう』

／石元清英（関西大学社会学部教授、ひょうご部落解放・人権研究所所長）

部落に住んでいる人たちは、江戸時代の被差別身分であった穢多や非人の子孫で、血筋が違うから差別されるのだと考えている人が多くいます。部落差別は血筋の違いを根拠としているというのです。これは正しいのでしょうか。

児童・生徒に、両親、祖父母、曾祖父母と、自分の祖先をたどり、それぞれの名前を順に書くように指示してみてください。すると、曾祖父母の名前を知らないという児童・生徒が数多く出るでしょう。また、祖父母の名前を4人とも正確に知っている児童・生徒もそれほど多くないかもしれません。このように、少なくとも自分の3代前がよくわからないという時代なのです。

Aさんという人がBさんという人を部落民だとみなし、差別的な言動を行ったとします。では、AさんはどうしてBさんが部落民であるということがわかったのでしょうか。Bさんの祖先を調べ上げて（Bさんが若ければ、5代ほど遡らないと、江戸時代にいきません）、確かにBさんの5代前は穢多であった、非人であったという事実をAさんは確認したのでしょうか。それは不可能です。自分自身の3代前がよくわからないのに、赤の他人の5代前など、わかるはずはありません。結局は、Bさんは部落といわれるところに住んでいる、住んでいた、住んでいたかもしれないということを根拠に部落民であるとみなしたにすぎないのです。そこでは、血筋は何の根拠にもなっていません。

▶人権教育ひょうご 総会及び記念講演のご案内

日時：2022年5月28日（土）

総会 13：30～

※終了後記念講演を行ないます。

場所：ラッセホール（予定）

内容：「今さら聞けない
同和教育と部落問題」（仮）

同和教育や部落問題について、「同和教育って何？」というような基本的なことについて、Q&A形式で学習していきます。

兵庫県水平運動史料集成



一つひとつの史料から先人たちの血のにじむような闘いの歴史を学ぶことができます。各地での部落史研究や学習会でご活用ください。

特別価格 2,000 円
送料 520 円

A5版／約650頁
部落解放同盟兵庫県連合会刊
(社) 兵庫部落解放研究所編

■お問合せ・ご注文

(社) ひょうご部落解放・人権研究所
電話：078-252-8280 FAX：078-252-8281
オンラインショップ (BASE) からご購入
いただけます。→





『雑草たちよ 大志を抱け』

(池辺葵／祥伝社／2017年2月、680円(税別))

学生時代の友人は不思議なものだ。ずっと、何年も、何十年も会っていないなくても、会えば昔の距離で話ができる。

先日、テレビの旅番組で、大阪の鶴橋がとりあげられた。何度目かとなる韓流ブームで、しょっちゅうメディアに登場するこの町は、筆者の故郷、昔からの友人がたくさん住んでいる町だ。カメラは鶴橋駅一帯に広がる食材店を紹介しながら迷路のような商店街を進み、あるマグロ専門店の前で立ち止まった。ふと、カメラの前に、見覚えのある顔が飛び出してきた。小・中・高の同級生だ。家もすぐ近所だった。

このマグロ店の社長をしているという。お世辞にも優秀な生徒とはいえなかった彼の姿を通して、彼のオモ二(母親)や、当時住んでいた

長屋のこと、偶然出会うと死ぬほど気まずかった銭湯のことなど、次々と思い出されて懐かしかった。すぐにラインに書き込み、返事をもらった。「気づいてくれて、ありがとう」。

本書の著者、池辺葵については、2015年に映画化された「繕い裁つ人」の原作者、ということくらいしか知らなかったが、スマホの漫画配信サイトを流し読みしていて、偶然この作品に出会った。繊細な心情描写と無駄を排した巧みな絵柄に魅了され、すぐに本を買って求めた。

地方都市の女子高生たちの日常を描いたこの作品は、通り過ぎて行った遠い記憶にシンクロする。今から思えば滑稽なことでも、多感な少女たちにとっては命をかけるほど真剣なできごとだったりする。眉毛の形、切りすぎた前髪。学年のはじめにある長距離走や音楽界での合唱。一生懸命が恥ずかしくなったり、再放送の時代劇に夢中だったり。そして、何より大切だった、友人たち。ぷぷぷ、とたまに吹き出ししながら読み進めていると、物語の中盤辺りで突然「シクロオ」というセリフが目飛び込んできた。あれれ?と思い、あせってページをめくっていくと、「オンマ(お母さん)」というセリフが出てくるのではないかと。全く予想もしない展開に度肝を抜かれた。「シクロオ」とは、韓国語で「うるさい」という意味である。主要人物の一人(しかも表紙には真ん中に描かれている)の少女は、在日コリアンだったのか……。ただ、それ以上も、それ以下も、物語には在日について出てこない。

こんなふうに、差別とかマイノリティとか抜きにして、ただ登場人物の1人として在日コリアンが自然に描かれている日本の漫画を、筆者は知らない。ごく普通に、大切な日常とともに過ごす友人の一人として、そこに存在する在日コリアン——胸がじんと熱くなった。

ネットの書き込みなどを探してみたが、このことについての記述はみあたらない。ヘイトはもちろんお断りだけど、もし見つけたら「気づいてくれて、ありがとう」と伝えたい。(K)



【会員のみなさまへ】

第56回定時社員総会のご案内

日時：2022年6月4日(土) 11:00～

場所：兵庫県立のじぎく会館 101・102号室

※当日14:00から、同会場にて2022年度第1回人権セミナー(無料)を開催いたします。ぜひご参加ください。



■ 2022年度人権セミナー《第1回》

高度経済成長と部落の生活実態

—なぜ部落問題研究は部落の変化を見落としたのか—

1955年から73年にかけて年平均実質経済成長率が10.0%という驚異的な数字を記録した日本の高度経済成長は、大きな社会変動をもたらした。この時期の製造業における生産規模の拡大と重化学工業やサービス業などの新たな産業の展開は、深刻な労働力不足をもたらし、1955年に1.09であった中学校新規学卒者の有効求人倍率は、1971年には6.83にまで上昇した。部落でも若年層を中心に安定した仕事に就く人たちが増大し、部落の生活実態は大きく変化した。しかし、部落問題研究では、1970年代に入って本格化した同和対策事業による部落の変化は評価されても、高度経済成長による部落の変化に言及されることは、1990年代に入るまでほとんどなかったといってよい。本セミナーでは、高度経済成長期における部落の生活実態の変化を明らかにするとともに、なぜ部落問題研究が高度経済成長による影響を軽視したのか、考えてみたい。

▶講師：石元清英（一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所所長、関西大学名誉教授）

▶場所：兵庫県立のじぎく会館 101・102号室

▶参加費：今回だけ、なんと無料!!

2022年

6月4日(土)

14:00～16:00

《第2回》同和対策事業から平等を考える

講師：柴原浩嗣さん
（大阪府人権協会事務局長）

日時：2022年7月2日（土）
14:00～16:00

場所：のじぎく会館ふれあいルーム

《第3回》性暴力被害について考える（仮）

講師：福岡ともみさん（性暴力被害者支援センター・ひょうご事務局長）

日時：2023年1月28日（土）
14:00～16:00

場所：神戸市教育会館（予定）

《第4回》日本の歴史と差別問題」部落問題を考える

講師：吉村智博さん
（大阪人権博物館学芸員）

日時：2023年3月4日（土）

場所：こうべまちづくり会館（予定）

▶参加費（第2回～第3回）

一般：1,000円／正会員：無料／
定期購読（個人）・賛助会員・学生・障害者 500円

※特別会員の方は会費請求時に同封する無料クーポンをご利用ください。

事務局から

- 「ウクライナ侵攻」とよく言います。「侵攻」は単に他国等に攻め込むこと。「侵略」は他国の主権を侵す、土地や物資等を奪いとること。「ウクライナ侵略」が適当と思います (ka)
- 『ウクライナファンブック』というガイドブックを読んでいる。この本が売れている理由や、掲載されている景色や人の「今」を思うと辛いけど、まずは知ること。関心を持ち続け、自分にできることを考えたい (H)
- 4月からNetflixで故郷・濟州島を舞台にした韓国ドラマが始まります。アップルTVの「パチンコ」も観たい。サブスク経費が高くて、大変です。(K)
- さくら味が大好きです。ハード系のパンに“富澤商店の桜あん”とクリームチーズを塗ると最高です。毎年こっそり楽しんでいましたが、今年は娘ちゃんに見つかって以来、家族みんなでハマっています。(ひ)